

事業名：病児・病後児保育事業

保育課 保育係

政策	03 安心を感じる保健・医療・福祉の充実								
施策	03 子育て環境の充実								
基本事業	02 未就学期児童への支援								
開始年度	平成23年度	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

病児・病後児保育を必要とする児童

手段（事務事業の内容、やり方）

子どもの疾病により、家庭内保育を要する場合にも安心して子どもを預けることのできる病児・病後児保育を実施する機関に対し、江別市病児・病後児保育事業実施要綱に基づき、その運営費の一部を補助する。

【実施機関】

あずま子ども家庭クリニック病児保育室にこにこ

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

保護者が就労している場合等において、子どもが病気の際に自宅での保育が困難な場合の保育需要に対応するため、病院・保育所等において病気の児童を一時的に保育することで、安心して子育てができる環境を整備し、児童の福祉向上を図る。

指標・事業費の推移

区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	病児・病後児保育登録児童数	人	437	304	344	600
対象指標2						
活動指標1	実施施設に対する補助金	千円	16,796	14,225	14,263	14,295
活動指標2						
成果指標1	病児・病後児保育延べ利用者数	人	1,208	1,016	1,179	1,100
成果指標2						
事業費(A)		千円	16,796	14,225	14,263	14,295
正職員人件費(B)		千円	1,605	1,924	1,953	1,878
総事業費(A+B)		千円	18,401	16,149	16,216	16,173

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	病児・病後児保育を実施する医療機関に対して運営費の一部を補助する。	負担金・補助及び交付金 14,263千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
安心して子育てができる環境の充実及び保護者の子育てと就労の両立支援のため。	
事業を取り巻く環境変化	
少子化の伸展に伴い、地域における地縁関係の希薄化も進み、共働き家庭の増加などから子育てかかる社会や家庭の意識も複雑・多様化している。このような中、子育てに関する様々な負担を軽減するとともに地域社会全体で子育てを支援する体制の整備が求められている。	

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）

(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？	
妥当である 妥当性が低い	理由 根拠 保護者が就労している場合等において、子どもが病気の際に自宅で困難な状況時の保育需要に対応するため、病気の児童を安心して一時的に保育する環境を整備するものであり、子育て支援はもとより児童福祉の向上が図られることから妥当である。
(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？	
貢献度大きい 貢献度ふつう 貢献度小さい 基礎的事務事業	理由 根拠 今日の経済状況やライフスタイルの多様化等から共働き世帯が増加する中、病気の児童を安心して預けることのできる環境が整備されることから貢献度は大きい。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？	
上がっている どちらかといえば上がっている 上がらない	理由 根拠 平成23年度からの実施事業であるが、利用実績は当初の見込みを大幅に超過しており、十分な成果が見られる。
(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？	
成果向上余地 大 成果向上余地 中 成果向上余地 小・なし	理由 根拠 現在、実施機関は1施設で1日の定員が15人であり、今後の利用状況等を見極めながら、必要に応じ実施機関を拡大することにより、成果向上の余地がある。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありませんか？	
ある なし	理由 根拠 本事業にかかる経費は、受益者負担はもとより、国の定めた保育対策促進事業補助金対象事業として実施しており、所要時間に関しても本市の保育事業を基本に実施していることから、削減の余地はない。